

JP

日本語



adorini

Humidor Guide

ヒュミドールと正しい葉巻保存に関して知っておくべき全ての情報

目次

1	ヒュミドールの構造	
1.1	スペイン杉材である必要があるのですか?	4
1.2	ベニヤ合板構造か? ソリッドウッド構造か?	5
1.3	ヒュミドールには密閉シールが必要ですか?	6
1.4	ガラス製蓋? 木製蓋?	6
1.5	ヒュミドールの品質規準	7
2	加湿器	
2.1	最適湿度	9
2.2	スポンジ加湿器もしくはアクリルポリマー加湿器	9
2.3	正しい溶剤の秘密、プロピレングリコールの不思議な効果 ..	11
2.4	補充の頻度	12
3	湿度計	
3.1	デジタルかアナログ	13
3.2	精密度	14
4	ヒュミドールのセットアップ	
4.1	第一段階 湿度計の針の調整	15
4.2	第二段階 加湿器の準備	16
4.3	第三段階 ヒュミドールに湿気を与える	16

adorini

5 葉巻の保存

5.1	換気	17
5.2	最適温度レベル	17
5.3	葉巻の最長保存期間	17
5.4	葉巻は成熟する	17
5.5	葉巻のブレンド	18
5.6	葉巻の位置を変える	18
5.7	葉巻の包装を取り除く	19

6 問題と解決法

6.1	カビ	20
6.2	タバコワーム	20
6.3	湿度が低すぎる	21
6.4	湿度が高すぎる	21
6.5	ヒュミドールから樹脂がにじみ出る	22
6.6	乾いてしまった葉巻を蘇らせる	22
6.7	ヒュミドール内の臭いを取り除く方法	22
6.8	ヒュミドール	23
6.9	アクセサリー	25

adorini

1 ヒュミドールの製造

1.1 スペイン杉材である必要があるのですか？

主にヒュミドールの内部には3種類の木材が使用されます。

- スペイン杉 (最も人気が高い)
- アメリカ又はカナダ原産の赤杉
- ホンジュラス原産マホガニー

スペイン杉には以下の利点があります：

- タバコ虫を防ぐ - 杉がかもし出す特有の芳香が作用。
- 湿度を吸収する能力の高さ -
ヒュミドール内部での安定した湿度を維持しカビの発生も防ぎます。
- 葉巻の熟成プロセスを促進。
- 葉巻の風味をより良くする効果があります。

スペイン杉 (植物名"cedrela odorata") は、実際はスペイン原産の木材ではなく、多くはブラジルやその他の中南米諸国から輸入されています。木材の表面に樹脂がにじみ出るといった欠点がありますが、使用前に木材を十分に乾燥させる事によってこれを大きく減らすことが出来ます。(6.5ヒュミドールから樹脂がにじみ出る)

アメリカ赤杉は湿度の吸収率の点でスペイン杉に劣り、より強い芳香を醸し出します。価格の安さと樹脂発生の問題が無いことから、アメリカ赤杉を使用しているヒュミドール製造会社もいくつかありますが、葉巻を長期間 保存しておく場合には木の強い芳香が葉巻に移るためあまり好まれていません。

ホンジュラス原産のマホガニーは、スペイン杉に相当する湿度の吸収力を持っていますが、芳香がそれほど強くありません。そのため害虫除去効果や、葉巻の風味を増す効果がスペイン杉ほど期待できません。

スペイン杉材を使用したヒュミドールは、葉巻の長期保存に適しています。ヒュミドール・キャビネットに関しては、葉巻自体がスペイン杉の箱に収納されているため、湿度吸収の高い他の木材を使用されても良いでしょう。葉巻を個別に収納する場合は、スペイン杉でできたトレーのあるヒュミドール・キャビネットの使用をお勧めします。

全てのAdorini ヒュミドールは内部にスペイン杉を使用しています。

1.2 ベニヤ合板構造か？ ソリッドウッド構造か？

ヒュミドール構造には2つのタイプがあります：

- 中質繊維板（MDF）ベースで、内張りにはスペイン杉でできたベニヤ板が貼られており、外はソリッドウッドのベニヤ（桜材がよく使用されます）を使用。
- ヒュミドールの本体全てにソリッドウッドを使用。内張りにはスペイン杉を使用。
(内張りがなく、ヒュミドール全体にソリッドウッドのスペイン杉が使用されている場合もあります。)

一般的に思われているのと違い、ソリッドウッド構造のヒュミドールがベニヤ合板構造より必ずしも優れているとは限りません。通常、ソリッドウッド構造のヒュミドールが高額になるのは、構造的に複雑なためです。

ヒュミドール内の湿度は外部の湿度より高いため、内部の木材は膨張し、ヒュミドールの内壁の張力が強くなります。

中質繊維板を使用しているベニヤ合板構造のヒュミドールの方は、湿度による膨張率が比較的小さいため、ひび割れ、蓋の変形を引き起こすヒュミドール内部の張力がそれほど高まりません。更にグロスラッカーの塗装仕上げにおいて、ベニヤ合板構造の方がソリッドウッド構造よりよくなじむという利点もあります。

スペイン杉のソリッドウッド使用のヒュミドールは木材が柔らかいため、へこみ、傷に弱いという弱点があります。スペイン杉の柔らかさ

は、グロス塗装や外面ラッカー仕上げの耐久性に限界があります。これらの理由のため、中質繊維板（MDF）構造の方がソリッドボード構造よりも標準的なヒュミドールとなっています。

1.3 ヒュミドールには密閉シールが必要ですか？

本来ヒュミドールは安定した内部湿度を維持するため十分に閉じられています。

1.4 ガラス製蓋？ 木製蓋？

数ヶ月以内に吸われる葉巻に関しては、ヒュミドールの蓋がガラス製でも、木製でも違いはありません。しかし、葉巻を数年以上ヒュミドール内に保管する場合は、木製蓋の方が好ましいです。ガラス製蓋のヒュミドール使用の場合は、直射日光をお避け下さい。長期保存では最前列の葉巻に色褪せが起こる可能性があります。一方で、ガラス製蓋のものは木製蓋に比べ頻繁に開ける必要性がなく、開放される時間が短いため、内部の湿度をより安定的に保つことができます。特にレストラン、クラブ、ホテルなどでの利用にとっても便利です。

ガラス製扉のヒュミドールキャビネットの使用は、オリジナルの葉巻ケースに保存されている限り、葉巻の保存に関しての悪影響はございません。ヒュミドールキャビネットの設置の際には、直射日光の当たるところは避けるようご注意ください。

1.5 ヒュミドールの品質規準

近年ヒュミドールの平均価格は大幅に下がりました。

ヒュミドールの商品の外観に大きな差がないにも関わらず、市場で目にする非常に大きな価格差に、多くのお客様が混乱されています。

まず、ヒュミドールは、どんな機能的特性を実現する必要があるのでしょうか？ まずは基本的に、約70%の一定の湿度レベルを維持し、ヒュミドール内のどの場所でもこの状態を維持させることが必要です。

ヒュミドールのこの基本機能は以下の評価基準で決定します：

- 適切で効率的な加湿システムの使用。スポンジベースのタイプよりアクリルポリマータイプの方が好ましい。
- 湿度の吸収率が高く、ヒュミドール内を常に一定の状態に保つことが出来るスペイン杉の内張り。スペイン杉の使用の他、その木材の厚さが重要。一般的なスペイン杉内張りの厚さ1-2ミリでは、スペイン杉の特性を最大限に活かすことができない。
- ヒュミドール内の空気循環。内装の構造やトレイ部のデザインは、ヒュミドール内部の全ての領域に自由な空気循環を妨げないこと。不十分な空気循環は全ての価格帯の多くの商品において見受けられる弱点。

ヒュミドールの品質は以下の評価基準で判断されます。

- 蝶番は長期使用にも耐え、摩擦が少ないもの。品質面では象限蝶番が好ましい。
- 正確な湿度計の使用。メタルスプリングを使用した湿度計より、毛髪を使用したタイプの方が好ましい。
- ヒュミドール本体の木材の強度。頑丈なヒュミドール本体は隔離状態を向上させるとともに、高品質な構造にとって重要。
- ラッカー塗装の品質。

アドリニデラックスの開発において私たちが目指したヒュミドールは、前述の評価基準へ可能な限り近づけることでした。最も高性能な部品、高品質の材料、そして革新的な構造上のデザインを組合せることで、高い品質規格を実現し、高い料金を払わなくとも高品質なヒュミドールをお求めいただけるようになりました。

デラックスヒュミドールの特徴

1



葉巻保存に最適な高精度毛髪湿度計。

2



ゴールドプレート仕様のアクリルポリマーアドリニデラックス加湿器。湿度の高い安定性を保つ調節可能な換気口付き。

3



ヒュミドール内の空気循環を向上させるユニークな換気リブ ("RibTech") を採用。アドリニ開発技術として保護されています。

4



強度を増したヒュミドール本体及びスペイン杉内張り。

5



天面のベニヤ板裏にある磁石プレートにより湿度計および加湿器の装着が可能。

6



革新的な区切り板（移動可能）の導入。アドリニ開発技術として保護されています。

7



区切り板にはラベルクリップを採用。アドリニ開発技術として保護されています。

8



新トレイデザイン("AirVent")の採用により、空気循環の最大化および新世代電子加湿器の装着が可能。アドリニ開発技術として保護されています。

9



象限蝶番の強化 -
ハンドポリッシュ 24金プレート使用

10



永久保証

2 加湿器

2.1 最適湿度

葉巻はヒュミドール内で約68-74%の湿度で保存される必要があります。一般的にこの状態が、典型的な葉巻の香りにとって最適です。また、この湿度レベルが葉巻の着火を助けています。湿度70%、気温華氏64度（摂氏18度）の状態では、空気1平方メートルあたり約10グラムの水分を含んでいます。この状態のとき、葉巻は重量の14%の最適湿度を吸収します。

乾いた葉巻はとても脆く、葉巻にとっての自然な湿度が保たれていないため早く燃えてしまいます。味はより強く、苦味があります。

逆に湿っているシガーは均等に燃えず、重い酸味のあるアルミのような味がします。

愛好者の中ではこのようなシガーの味の違いを好む方もいるため、わざとより乾いた又は湿った環境に葉巻を保存する場合があります。湿度65-75%の間では葉巻は長期間保存できます。湿度80%以上を超える場合は、注意が必要です。葉巻が腐り、カビの発生が始まります。

2.2 スポンジ加湿器もしくはアクリルポリマー加湿器

最近まで全ての加湿器には同一で単純なメカニズムが採用されていました。加湿器としてスポンジがプラスチックや金属のケースの中に取り付けられていました。加湿器製造元の最大手はフランスのクレド社だったため、「クレド」という言葉がスポンジベース加湿器の代名詞として使われています。また、このタイプの加湿器製造は難しくない事から、東南アジアの製造元にコピーされ、同じ性能でクレド社よりも破格な値段で売り出されました。スポンジを使用した加湿器には、性能を高めるためにプロピレングリコールを使用した特別な溶剤を使用することが推奨されています。

近年、様々な加湿方法が試行されてきましたが、。残念なことに、長期間の使用に耐えられない初期段階のシステムを提供したことで、ヒュミドール購入者が不利益を被ることになっていました。最近では、いくつかのヒュミドール製造元では、現在でも一般的なスポンジ加湿器に代わり、アクリルポリマー加湿器が広く使われ始めています。適正なポリマー剤が使用されていれば、確実に相対湿度約70-72%を維持することができます。また、これまでのスポンジ加湿器に比べて、短時間で湿度の振れを補正することが可能です。しかし、必

ずしもアクリルポリマー加湿器の全てに適正なポリマー剤が使用されているとも限りません。

とはいうものの、安定した湿度レベルを維持することができるため、お客様が頻繁に湿度管理やメンテナンスをする必要がないことからアクリルポリマー加湿器の利用を強く推奨致します。更に、アクリルポリマー加湿器の方がスポンジ加湿器に比べて細菌繁殖の危険性が少ないです。しかし、もちろん細菌繁殖の可能性を全く排除することはできません。細菌繁殖の可能性を少なくするには、加湿器（スポンジタイプ、アクリルポリマータイプ共）を約2年ごとに新品に交換することをお勧め致します。

加湿器に使用されるハイテクなアクリルポリマーは大量の水分を吸収することが出来ます。但し、水を加える場合には蒸留水のみを使用して下さい。また、新しく購入されたアクリルポリマー加湿器搭載のヒュミドールについては、2日ほど経たないと湿度レベルが安定しないことに注意してください。

スポンジ加湿器に比べ、安定した湿度を維持し、管理に手間がかからず、バクテリアの繁殖率も低い点から、アクリルポリマー加湿器の使用をお薦めしています。

しかしながら、細菌などの繁殖を完全に排除することは不可能ですので、どちらのタイプの加湿器（スポンジ加湿器/アクリルポリマー加湿器）を使用する場合でも2年おきに交換するようにして下さい。

Adorini 社 はハイテクアクリルポリマークリスタルを使用した、世界有数の加湿システム **Adorini デラックスプレミアム加湿器** を提供しています。アクリルポリマーの自動調整効果は、加湿器ケースの調整窓による湿度の微調整を補完することが出来ます。

総括すると、簡易的なスポンジ加湿器でも先に記載したプロピレン・グリコロール剤が定期的に補充されていれば十分な加湿機能を果たします。（2-3参照）アクリルポリマー加湿器は安定した湿度維持の点で優れているだけでなく、ヒュミドールの開閉時に頻繁に起きる短時間での湿度低下を速やかに補正することができます。アクリルポ

リマーを利用すれば細菌繁殖の危険性は低くなり、またスポンジ加湿器に必要な特別なプロピレン・グリコール溶剤の購入が必要でない分、初期投資はかかるものの長期的に見ればその差額を相殺できます。

完璧を求めるなら—Adorini デラックスプレミアム加湿器



adorini

- 単独の調整弁
- 加湿自動制御機能と抗菌機能
- 銀メッキアルミニウム仕上げ
- 特別な加湿溶剤不要
- 新世代アクリルポリエステルクリスタルフリースタイプ

2.3 正しい溶液の秘密、プロピレングリコールの 不思議な効果

新しいアクリルポリマー加湿器 (Adorini デラックスプレミアム加湿器) は蒸留水のみを使用して下さい。

以下は、従来のスポンジベース加湿器をご利用の際の説明です。
スポンジベース加湿器に使用できる2種類の液体：

- 蒸留水（スーパーマーケット、自動車用品店や薬局などで購入できます）
- 特別剤—プロピレン・グリコール剤50%と蒸留水 50% (adorini社 "HumiFit"剤)

プロピレン・グリコールは無色無臭の液体でヒューミドールでの使用の際に、特に効果的な機能が2つあります。まず第1に、カビと菌の繁殖を防ぎます。第2に、プロピレン・グリコールは加湿器の表面に薄い被膜を形成し、湿度が70%を超えた場合には湿度を吸収し、70%を下回った場合には湿度を発生させる事が出来ます。このように、加湿

器の自動調整機能により、最適湿度レベル約70%を自動的に維持します。プロピレングリコールが表面の膜を形成し、最適湿度レベルに達するまでには約数日ほどかかります。

プロピレン・グリコールは 1.2 プロパンジオールとしても知られています。

しかし、エチレン・グリコール（一般的に、グリコールと呼ばれているもの）とは絶対に間違えないで下さい。プロピレン・グリコールの純度は薬品・食品安全性規準を満たしていなければなりません。

蒸留水の利点は、普通の水道水と比べ加湿器を石灰とカビから守ります。水道水の中には鉱物が入っており、これが加湿器のスポンジの穴を塞いでしまうことがあります。

また、水道水は塩素とバクテリアを含んでいるため、ヒュミドール内の香りを害し、カビの発生につながります。

2.4 補充の頻度

ポリマー加湿器 (e.g. Adorini デラックスプレミアム加湿器)

は1ヶ月に一回ほど蒸留水を補充して下さい。補充頻度については、さまざまな要素が影響してきます。ヒュミドールの開閉回数。保存している葉巻本数、ヒュミドールのサイズ、外気湿度、外気温度など。スポンジ加湿器の場合、補充方法は少し複雑です。最初に加湿器を一杯にするときは特別なプロピレングリコール溶剤のみを使用して下さい。蒸留水は特別なプロピレングリコール剤より早く蒸発してしまうため、月に一回の程度で必ず蒸留水を補充して下さい。プロピレングリコール剤はヒュミドール内の湿度レベルが急激に下がったときのみにご使用下さい。外部気温により異なりますが、約3ヶ月から6ヵ月後に処置の必要がでてくる可能性があります。どのような場合でも、それ以上の頻度での補充はしないで下さい。加湿システムが溶剤を吸収できないため、故障の原因となる可能性があります。

3 湿度計

3.1 デジタルかアナログ

ヒュミドールには一般的にアナログ湿度計が使用されています。アナログ湿度計は以下の3種に分類されます。

- メタルスプリングを使用した湿度計：このタイプは多くのヒュミドールに使用されています。低価格ですが、精密度においては限界があります。
- 自然毛髪を使用した湿度計：このタイプはより高い精密度がありますが、それを保つためのメンテナンスが必要なため、ヒュミドールの湿度計としてはあまり適していません。
- 人工毛髪を使用した湿度計：このタイプは自然毛髪を使用した湿度計と同等の精密度があり、メンテナンスの必要が全く無いためヒュミドールの湿度計には最も適したタイプです。

Adorini毛髪湿度計は、高品質の人工毛髪を使用して湿度を計測しています。ドイツの有名なメーカーが、ヒュミドール内の高い湿度を最適化するためのAdorini社専用モデル「シガーエディション」を提供しています。湿度計は限られた湿度の範囲内でのみ正確な数値を計測することが出来ます。一般の湿度計は、室内の湿度が30%から60%の範囲内で最も正確な計測が出来るように設定されています。通常湿度65%を超える葉巻保管庫の中では、これらの一般的なアナログ湿度計もデジタル湿度計も精度が保証されません。

Adorini毛髪湿度計は、湿度計の針の調整がなされた状態で出荷されるため使用前の調整作業の必要性がありません。この湿度計に代わり、デジタル湿度計を設置することも可能です。デジタル湿度計は目盛りが読みやすく、針の調整も必要ありません。しかし、湿度に適應する時間がかかるためすぐに正確な湿度を表示することが出来ません。Adoriniデジタル湿度計は、65%以上の湿度レベルで正確な測定の出来る数少ないデジタル湿度計のひとつです。

3.2 精密度

通常、アナログ湿度計は使用前に針の調整が必要です。出荷前に針の調整がされているアドリニ毛髪湿度計には、使用前の針の調整は必要ありません。

しかし、配送中の衝撃などで調整が狂った場合、針の再調整をする必要があります。

先にも触れたように、メタルスプリングを使用した湿度計の精密度には限界があります。ヒュミドール内部の高い湿度状態をより正確に計測することが出来るのはAdorini 毛髪湿度計です。しかしながら、温度の計測に比べ、湿度の計測を厳密に正確に行うことはできません。製造元は100ドル以上もする特別な研究所仕様の湿度計でさえ、 $\pm 2\%$ の誤差を含む精密度であることを保証しています。アナログ湿度計は年1回再調整を行ってください。メタルスプリングを使用した湿度計を標準装置としているヒュミドールの場合、特に湿度レベルの変化に注意が必要です。アクリル・ポリマー又はプロピレン・グリコール剤を使ったスポンジベースの加湿器を使用する際は(加湿器についての説明)、湿度は自動的に70%前後に維持されるはずですが、湿度レベルが低下した場合は、蒸留水やプロピレン・グリコール剤(スポンジベースの加湿器用)を補充してください。

疑わしいときには、適切な環境で保存されているかどうか葉巻を触って確認下さい。

更なる正確さを求めるなら—Adorini 毛髪湿度計

- 最高水準の正確さ
- ハイテク人工毛髪使用
- 65%以上の湿度環境での使用に最適
- 永久保証



4 ヒュミドールのセットアップ

ヒュミドールを購入された後、葉巻を収納する前に簡単な準備作業が必要です。この作業を行わないとヒュミドール内の乾いた杉材が葉巻の水分を吸収してしまいます。

ヒュミドールを購入後、葉巻を保存する前に簡単な準備作業を行ってください。その準備をしなかった場合、乾燥した杉木材の内張りが葉巻の湿気を奪ってしまいます。アドリニデラックスヒュミドールには、アドリニ毛髪湿度計とアクリルポリマータイプのアドリニプレミアムデラックス加湿器が装備されています。

4.1 第一段階 湿度計の針の調整

アドリニデラックスヒュミドールと一緒に出荷されるアドリニ毛髪湿度計には、こちらの準備作業は必要ありません。しかし針の調整がされないまま出荷されていた場合、もしくは搬送中の衝撃などにより針の再調整が必要な場合は下記をご参照下さい。

針の調整には次の2つの方法があります：

- 最も推奨されているより正確な方法は、小さなプラスチックのケースに湿度計と塩を一緒にいれる方法です。コップまたはスプーンなどに塩をいれ、数滴の水で湿らせます。塩は溶けずに湿っている状態にし、その塩を湿度計と共にプラスチックのケースに入れ密封します。8時間ほど経過すると、ケース内の湿度は約75%の状態になっているはずです。湿度計の裏からの針をドライバーなどで75%に合わせて下さい。
- 別の方法。湿度計をヒュミドールから取り出し、湿らせた布をしっかりと巻きつけ1時間ほどそのままにします。ドライバーで湿度計の針を裏から96%になるように合わせて下さい。

4.2 第二段階 加湿器の準備

加湿器を皿の上に載せ、プロピリレン・グリコール剤（スポンジベース加湿器用）又は蒸留水（Adorini アクリルポリマーベースのデラックスプレミアム加湿器用）で湿らせます。加湿器を液体の中に入れ、約5分間浸して下さい。加湿器が適当な水分を吸収した時点で、加湿器を取り出し、本体を振って余分な水分を取り除いてください。その後、布で乾かし、ヒュミドール内に設置して下さい。

4.3 第三段階 ヒュミドールに湿気を与える

ヒュミドールの内壁、仕切り、トレーは蒸留水で湿らせた布で拭いてください。蒸留水の入った容器をヒュミドール内部に入れ、3日間蓋を閉めた状態で置いてください。蒸留水を電子レンジで事前に温めた場合、水分はより早く吸収され約1日もすればヒュミドールは使用可能な状態（ヒュミドールの内壁が十分な湿度を吸収している）となります。

The logo for Adorini, featuring the brand name in a bold, lowercase, sans-serif font. The letters 'o' and 'i' are highlighted with a yellow-to-orange gradient. A thin horizontal line is positioned below the text.

5 葉巻の保存

5.1 換気

良く使用される ヒュミドールは2週間に一度は通気をよくし、新鮮な空気と入れ替えてください。（密封シール）。

5.2 最適温度レベル

最適温度は華氏64-70度（摂氏18-21度）とされています。それより低い温度、華氏54度（摂氏12度）以下ではシガールの熟成プロセスが妨げられてしまいます。したがって、冷たいワインセラーにシガールを保管するのは限られた期間のみ有効です。逆に、華氏75度（摂氏24度）以上の高温では、煙草虫の繁殖やカビの発生を促します。そのため、ヒュミドールは絶対に直射日光を避けた場所に設置して下さい。

5.3 葉巻の最長保存期間

葉巻は65%から75%ぐらいの湿度が保っており、定期的に通気のあるヒュミドールであれば制限なくヒュミドールの中で保管することができます。高級なプレミアムシガールは何年もの保管を通し特別な味を醸し出します。特にイギリスでは、最高の葉巻の風味を楽しむために長期保存をする伝統があります。

5.4 葉巻は成熟する

プレミアムシガールはお店へ出荷される前に工場や卸業者の空調設備のある倉庫で6ヶ月間熟成されます。葉巻需要の増加により、最近、熟成期間は十分に保たれていないのが現状です。したがって、ご購入後3-6ヶ月間はヒュミドール内に保管されることをお勧め致します。葉巻はこの熟成期間を経て、よりまろやかでバランスの取れた風味になります。

プレミアムシガールによっては数年保管されることによって素晴らしい味に熟成するものもあります。最終的に、保管期間については個人個人の好みの問題になります。味の変化をお好みの葉巻と保管期間で比べ合わせ、より良い時期を探し出してみてください。

5.5 葉巻のブレンド

葉巻は、ヒュミドール内張りの木材の香りだけでなく、同じヒュミドール内に保存している他の葉巻からも香りを吸収します。ヒュミドール内の仕切り板は、香りの混合を避ける働きをします。しかし、香りの移行を防ぐためには、元の化粧箱に入った葉巻を別のヒュミドールもしくは異なったキャビネットに保存する必要があります。しかし、愛好家の中には、好みの香りを混ぜ合わせることを好み、わざと別の葉巻を数ヶ月間同じヒュミドールに保存する方もいます。とはいうものの、一般的には、異なる強さの葉巻（特に原産国の異なるもの）を一緒に保存することは出来るだけ避けた方が良いです。葉巻を保存する上でゼロファン包装のまま保存するのは美観的にはあまり好まれません。大きなヒュミドールキャビネットでオリジナルの化粧箱に入れて保存することにより、香りの移行を防ぐことができます。アドリニデラックスヒュミドールの装備されている仕切り板は、異なるタイプの葉巻を効率的に分けて保存できるだけでなく、ヒュミドール内のスペースを効率的に活用することができます。

5.6 葉巻の位置を変える

ヒュミドール内の湿度レベルが不均一になるのは、よくある問題です。特に収容最大可能本数に近い状態でヒュミドールに保存している場合や、トレイ付きの大型ヒュミドールに保存している場合、湿度レベルは加湿システムより高めになっています。そのため、長期間葉巻を保存する場合には、1-3ヶ月毎に葉巻を回転させる必要があります。アドリニデラックスヒュミドールシリーズは、均一した保存状態を保つべくヒュミドール内の空気循環を最大化するよう特に注意して設計されています。ヒュミドールの側面と底にある換気窓、空気循環を更に効率よくするトレイに施された特別なデザインといった画期的な機能により、ヒュミドール内の適正な空気循環と、葉巻の回転を必要としない均一した葉巻状態を実現しています。

5.7 葉巻の包装を取り除く

高級葉巻はスペイン杉の包装をされている場合があります。しかし、ヒュミドール内ではこのプラスチック包装は最適な湿度を保つためには逆効果となります。

もしシガーをプラスチックの包みのままヒュミドール内に入れられる場合は、包装の端の部分を開けて空気の循環を促してください。プラスチック包装を外すかどうかはお客様の好みの問題です。

包装を外す事は、葉巻にとって良い熟成を促し、見た目の美しさの点からも好まれています。一方で、プラスチックの包装をしたままの保存では、他の葉巻との香りの混合がさけられるという利点があります。もし、ヒュミドール内に仕切り板がなく、香りの混合を避けたい場合には、この方法がひとつの保存方法のオプションとなります。

プレミアムシガーはスペイン杉の包装が施されています。この包装をしたまま保存した場合、葉巻には杉の香りが強く残ります。ヒュミドール内に保存する際に、この包装を外すかどうかは個人の趣向の問題です。

adorini

6 問題と解決法

6.1 カビ

葉巻の表面に明るい斑点が現れた場合は、2つの理由が考えられます。その斑点が明るい灰色で埃っぽく乾いた布で簡単に取り除ける場合は、通常の葉巻の熟成プロセスによるもので、葉巻の味に影響はありません。しかし、斑点に堅い皮状のものがあり青緑色をしている場合、その葉巻にはカビが発生しています。極端に高い湿度レベルで保存しているとカビが発生する可能性があります。その場合、直ちにカビの生えた葉巻を取り除き、ヒュミドールを乾いた布で隅々まできれいにして下さい。ヒュミドール内にもカビが発生している場合は、加湿器を外し、温水で清掃して下さい。カビの発生した葉巻は、決してヒュミドール内には戻さないで下さい。

6.2 タバコワーム

タバコワーム（煙草虫）繁殖は、葉巻が極端に高温保存された場合に起こります。葉巻の外の葉に小さなワーム穴が見られた場合は繁殖している兆候です。

2ヶ月の寿命で煙草虫は5mmぐらいに成長します。煙草虫が発生した全ての葉巻を直ちにヒュミドールから取り除き、煙草虫がいるかどうかをご確認下さい。煙草虫の被害にあった葉巻を取り除きヒュミドールをきれいに掃除した後でしたら、残りの葉巻をヒュミドール内に戻しても問題はありません。

葉巻内に生き残っている幼虫を完全に除去するためには、葉巻を数日間冷凍庫に入れて下さい。その際には、葉巻の周りにあるものの匂いにご注意下さい。

冷凍後、葉巻の葉の損傷を防ぐために、ゆっくりと常温で解凍させて下さい。この様な場合以外では、湿度レベルが極端に低いため葉巻を冷蔵庫や冷凍庫で保存しないで下さい。

6.3 湿度が低すぎる

もしヒュミドール内の湿度レベルが低すぎる場合、以下の方法を試してください：

- 塩を使う方法で湿度計の目盛りの調整を行ってください。加湿器にプロピレン・グリコール剤（スポンジベースのヒュミドールご使用の場合）が十分入っているか、またご使用前にヒュミドール内が充分濡れていることを確認してください。
- 加湿器に蒸留水を追加して下さい。
- 長い間の使用に湿度低下が起こった場合、加湿器が正常に機能していない可能性があります。たとえば、水道水を使用している場合、スポンジの気孔がふさがってしまいます。また非常に高い濃度のプロピレン・グリコールを使用している場合には、表面が蒸留水の浸透を妨げる場合もあります。

乾いた葉巻をヒュミドールに入れた直後に発生する湿度低下は正常なものです。数日後には、ヒュミドール内の湿度は安定化します。ヒュミドールを開閉の際にも、短時間での湿度低下が発生します。70%レベルでの多少の誤差はご心配いりません。湿度測定の精密度についての説明をご参照下さい。（湿度計 精密度）。

6.4 湿度が高すぎる

もしヒュミドール内の湿度レベルが高すぎる場合、以下の方法を試してください。

- 塩を使う方法で湿度計の目盛りの調整を行ってください。加湿器にプロピレン・グリコール剤（スポンジベースのヒュミドールご使用の場合）が十分入っているか、またご使用前にヒュミドール内が充分濡れていることを確認してください。
- スポンジベースの加湿器のみ：プロピレン・グリコール剤が何ヶ月間か交換されていなかった場合は交換を行ってください。

70%レベルでの多少の誤差はご心配いりません。湿度測定の精密度についての説明をご参照下さい。（湿度計 精密度）

6.5 ヒュミドールから樹脂がにじみ出る

スペイン杉の特別な樹脂は、時間が経つにつれ木の表面ににじみ出ることがあります。Adriniヒュミドールに使用している木材にはこのようなことは起こりませんが、これは製造前に木材を十分に乾燥させていなかったために発生します。この粘着性のある樹脂はアセトンを使用して取り除くことができます。

樹脂が現れた部分は目の細かいサンドペーパーで擦ってください。特に厚い杉材を使用した部分には、この作業を2-3回繰り返して行って下さい。この樹脂は葉巻の品質に影響を与えることはありませんが、葉巻が直接樹脂に触れてしまった場合、葉巻の外部の葉を悪くしてしまう恐れがあります。

洗剤等を使用した後は、ヒュミドールに葉巻を戻す前に十分に換気してください。

6.6 乾いてしまった葉巻を蘇らせる

乾燥してしまった葉巻をヒュミドールに入れることによって、以前の状態に戻すことができます。しかし加湿は少しずつ行わなければなりません。よく調整されたヒュミドールの中で2ヶ月程度保存すれば、葉巻は元の状態に戻ります。乾いた葉巻は折れやすいため、取り扱いにはお気をつけ下さい。

6.7 ヒュミドール内の臭いを取り除く方法

洗剤等を使用した後、その臭いがヒュミドール内に残留する場合があります。洗剤などの使用は緊急の場合を除いて避けてください。既についてしまった臭いについては、以下の方法をお試し下さい。

まず、ヒュミドールを開け十分換気をする。

数日後、まだ臭いが残っている場合は、ブランデーかウィスキーの入ったグラスをヒュミドールの中に入れ蓋をします。(注意：これは葉巻の風味に長い間影響しますので、熟考して行ってください。)

愛好者の中には葉巻の風味を洗練させるために、あえて数滴のブランデーやウィスキーを加湿器に入れる方もいます。

adorini



Torino - Deluxe

N° Art.: h106d

adorini



Modena - Deluxe

N° Art.: h103d

adorini



Firenze - Deluxe

N° Art.: h101d

adorini



Milan - Deluxe

N° Art.: h125d

adorini



Pisa - Deluxe

N° Art.: h503d

adorini



Venezia (medium) Deluxe

N° Art.: h120d

adorini



Sorrente - Deluxe

N° Art.: h104d

adorini



Triest - Deluxe

N° Art.: h116d

adorini



Vega - Deluxe

N° Art.: h202d

adorini



Genova - Deluxe

N° Art.: h122d

adorini



Santiago - Deluxe

N° Art.: h102d

adorini



Venezia (grande) Deluxe

N° Art.: h127d

adorini



Chianti (grande) Deluxe

N° Art.: h502d

adorini



Humidor Roma

N° Art.: h203s

adorini



Humidor Roma

N° Art.: h203m

adorini



Aficionado - Deluxe

N° Art.: h113d

adorini



Habana - Deluxe

N° Art.: h110d

adorini



Chianti (medium) Deluxe

N° Art.: h501d

adorini



Pyramid - Deluxe

Art.Nr: h128d

adorini



N° Art.: a130

adorini



N° Art.: a135



Art.Nr: a340

adorini



N° Art.: a120

adorini



N° Art.: a103

adorini



N° Art.: a106

adorini



N° Art.: a106s

adorini



N° Art.: a104

adorini



N° Art.: a121

adorini



N° Art.: a127

adorini



N° Art.: a101

adorini



N° Art.: a100

adorini



N° Art.: a102

adorini



N° Art.: a128

adorini



N° Art.: a111

